

令和5年度 天理高等学校第二部 学校運営評価

評価 A:きちんと取り組んでいる B:ほぼ取り組んでいる C:あまり取り組めていない D:全く取り組めていない

1. 重点目標と方策

	重点目標	目標達成の方策	評価	成果と課題 (○成果 △課題)
①	(信条教育への取り組み) 神恩感謝の念を心に抱き、働く喜びと学ぶ喜びを 体得できる生徒を育てる。	学校参拝を真剣に取り組む。	A	○学校参拝について真剣に取り組むことができた。また、生徒の中には休日やお昼休みなども神輿へ行き、参拝をして いる者もいる。 ○ほとんどの生徒が気持ちよく挨拶ができてきていると思う。 △昇殿してからの私語が多い。すぐに正座をしない者もいる。これからも継続的に声掛けを行っていく必要がある。 △注意すべきことがしっかりと伝えられていない部分もあるため、もっともって生徒との信頼関係を構築していく必要 がある。
		教職員から生徒への挨拶・声かけを行う。	A	
②	(生きる力を培う) 知性を磨き、徳分を伸ばし、心身ともに健康で自 立した生徒を育てる。	基本的な生活習慣を向上させる。	B	○生徒は学校・つとめ・寮(詰所)の生活を通して、基本的な生活習慣を身に付けていっている。 ○生徒はホームルームや学年集会を通じて、他者への思いやりなど、取り組んでいる。仲間との大切さや協 調性を育んでいっている。 ○研修内容を授業研究や生徒指導に生かすことができた。 △生徒と向き合う時間が取れなかったり、付き合い方が希薄になりつつあり、本来させるべきことを指導 できないことがあった。 △授業研究について、来年度は研修等へもっと積極的に参加していきたい。 △新課程に則った、ICT活用も含めた教材作成に向けて、努力と工夫が更に必要となっている。
		他者への礼儀と思いやりを培わせる。	A	
		授業研究と実践の工夫に取り組む。	B	

2. 教育活動の目標と方策

	重点目標	目標達成の方策	評価	成果と課題 (○成果 △課題)
信条教育	(1)親神様、教祖にお喜びいただき、現代社会に 必要とされる「道の後継者」を育てるべく、教職員 自らが日々信仰実践に励むよう努力する。 (2)3年次に別席を運び、「おさづけの理」を持載さ せていただき、4年次には積極的に「おさづけの 理」を取り次ぎ、「よふぼく」の自覚を持たせるよう にする。	学校・学寮研修会、つとめ先懇談会を通じて、学校・寮・つとめ先の連 携の強化を図り、おちばに伏せこむ姿勢を培う。	B	○4年生はよふぼくとして積極的に取り組み、周囲の生徒は羨ましい思いをするなど、信仰実践に励む姿がよく見られる。 ○教職員、寮職員ともに積極的に取り組み、おさづけを取り次いでいる。 ○職員まなびに多数の教職員が参加している。 ○大寮参拝、大寮行事等を通して、教職員も信仰実践に励んでいる。 ○大寮参拝は教員から身近なところからの「おさづけ」を心掛けていきたい。 △寮の知識不足から、生徒に対して信仰的な話をあまりできていない。 △教理等を学びなおす機会がほしい。 △大寮参拝時の身だしなみや態度がよくなった。
		教義科の授業の中で、「つとめ」の大切さを教え、大寮参拝・大寮行 事・月次祭行事を通して報恩感謝の心の涵養を図る。	A	
学習指導	(1)生徒の能力・適性・生活条件に即した魅力ある 教育課程の実施をめざす。	「わかる授業」の実践を目指して校外研修に参加したり、教科内での授 業研修を行い、指導技術の向上をめざす。	B	○電子黒板の利用が定着し、視覚に訴える授業が増えている。 ○新課程実施に対応するため、教科内での試行錯誤を続けている。 ○基礎講習等で考査対策を行い、数学基本講習等で学習支援を行っている。 △学習意欲を高めるための創意工夫が必要である。 △校外研修を含め、研修時間の確保が非常に難しい状況である。 △暗記力を問うばかりで、思考力を養う授業が十分できていない。
		基礎・基本の定着の徹底のため、各教科で、課題を与えたり講習を施し たりする。また、「確かな学力」を育成するうえからも、全学年の「校 内模試」の実施により、さらに学習意欲を高めるようつとめる。	B	
進路指導	(1)個々の生徒の希望進路を実現するために、本 校の実情を踏まえた指導を行う。 (2)社会に出てからも通用する学力・教養を身に つけさせる。	3年次からの選択科目および自らの進路について、しっかりと考えさせ る。	B	○学級担任及び進路指導部が中心となり、進路の多様化に対応しながら懇切丁寧な指導を心掛け、進路保障をすることができた。 ○進路オリエンテーションやガイダンスなどを通じて、進路の幅を増やし、考える進路を実践できている。 ○龍谷大学合格や奈良県警察内定など、生徒自身の頑張りがもたらしたことから、関係教職員・学級担任・進路指導部との連携も密に取 ることができたことと大きな成果に結びついた。 △多くの進路情報は生徒には伝えられているものの、卒業後の進路に関する意識が少し薄く、生徒も見受けられるため、更なる改善を 実施していきたい。 △進路の実践に伴う教職員自身のアンテナ感度向上への取り組み、教科担当や教員同士の連携の強化など、学校全体の体制強化 が望ましい。
		授業はもちろん、基礎講習・進学講習の充実を図り、全国レベルの模試 も積極的に受けるように指導する。	B	
人権教育	(1)「陽気世界」実現のために「天理教の教義」の 実践を通し、あらゆる差別意識の変革をめざす。	研究大会、研修会・公開HR等に参加するなどの自己研鑽につとめる。	C	○生徒の些細な変化にも気付けるよう、生徒一人ひとりに寄り添う声掛けを実践している。 ○担任の教員を中心に充実した人権ホームルームを実施できている。 ○全校生徒対象の教話や人権教育の講演で関心を持って聞く生徒が多かった。 △研修会等へも、もっと積極的に参加できればと思う。 △生徒が能動的に考えることにつながっていないところがあり、他人事に受け取っている場面があるので、つなげてい けるようにする必要がある。 △特別な枠組みの中にあるような感覚(人権教育と銘打つてするものだけが人権教育)でなく、教員の取り組みすべて が人権教育に通じていて、教育活動の根本にあるものという意識が広がればさらに良くなると思う。
		あらゆる教育活動において、人権に配慮した指導を行う。	A	
ひのきしん生指導	(1)4年間のおちばへの伏せこみを通して、よ ふぼくとしての自覚と自信を培い、お道の御用に、ま た、社会に貢献できる人材の育成をめざす。	「つとめ先訪問」を通して、つとめ先と学級担任との連絡を密にし生徒 の育成に資する。	A	○つとめ先訪問というシステムを上手く活用し、密に連絡を取り、連携を図ることで、よりきめ細やかな生 徒育成を図ることができた。 ○学校、つとめ先、寮と三つ巴の体制を強化することで、結果、生徒たちの自己肯定感や自尊心が育まれ ている。 △「つとめ」に対しての生徒の意識の差が大きくなるように感じると、この数年間の課題であるが、教員世話 課・学校本部・一れつとめと細かく情報共有をし、現在の高校生、生徒の特性を見つめることから始めた。そ の結果、年度の「ひのきしん生お仕込み」において、生徒のニーズに合った仕込みができた。またその生 徒の反応をも共有することで、新たな生徒育成を図っている。成果が見いだされるまでにもうしばらく年 数がかかると思われる。
		つとめ先で生じた生徒の諸問題に対し、つとめ先に適切な対応をお願い する。	A	
生徒指導	(1)生徒の自立・自律を促し、基本的な生活習慣の 確立と規範意識の向上を図る。 (2)教員間の連携を強化し、問題行動の予防と指 導の一貫性を図る。 (3)集団における個々の在り方を考えさせ、それ ぞれの課題解決や自己実現に向けての自己指導 力を高める。 (4)個々や集団の安全についての意識の高揚を 図る。 (5)いじめや暴力の予防と早期発見・組織的対応 を強化し、根絶を目指す。	HR活動、教科指導、寮、学校行事、部活動等、あらゆる場面で生徒指 導を実践する。	B	○日頃の声掛けや取り組みが諸問題を未然に防ぐことや、生徒の規範意識高揚のきっかけに なっている。 ○生徒を注意深く観察し、些細な変化に気づき、心配な言動についてはすぐに教員間で共有す るようにしている。 ○担任や学年だけでなく、生徒指導部、学寮、部活動などと連携を図りながら生徒の指導がで きている。 ○個々が抱える問題や考え方や生き方が多様化する中、保護者と連携しながら、つとめ先、学寮 とかわる大人を総動員して生徒の心の安心、安全を構築するべく職員間の連携強化を図って いる。 ○自転車通学者安全集会や夜間の下校指導などの取り組みが、生徒の交通マナーの向上と帰 路の安全確保につながっている。 ○いじめアンケートや講演等の実施は、生徒指導において一定の成果がみられる。 △教員間で指導に差があるため、学級担任・学年単位でまとまった指導を徹底すべきである。 △授業や参拝に遅れてくる生徒が若干名おり、時間厳守や遅刻の防止が徹底できていない。 △頭髪・服装指導が不十分。生徒指導部が主体となり、服装・頭髪等の一斉指導などの必要性 を感じる。 △自転車による事故が数件発生し、安全指導をより充実させる必要がある。 △講習・講演や集会などを年間を通してより計画的に実施しなければならない。
		授業時の遅刻防止と適切な挨拶を全授業において徹底し、時間厳守の態 度と挨拶の定着を図る。	B	
		服装や頭髪等、身だしなみの乱れについては、全ての教員がその場で指 摘し、速やかに改善させる。	B	
		教員間や学校・学寮・保護者等との連携強化に努め、問題事象だけでな く、気になることは些細なことでも早期に情報を共有し対応にあたる。	B	
		自己や集団の課題に気付かせ、その解決方法を主体的に考えさせる問題 提起や投げかけをおこなう。	B	
		生徒理解や個々の課題の共有を図るため、個人面談はもともと日頃の声 かけを通して生徒観察につとめる。	B	
特別教育活動	(1)学校生活の充実をはかるために積極的に活 動できる心豊かな生徒を育てる。 (2)部活動に積極的に取り組み、主体的に行動で きる生徒を育てる。	行事を通して生徒の自主性を高め、達成感を得られる活動の工夫と充実 に努める。	A	○学校行事に積極的に参加し、主体的に取り組んでいる。 ○活動での役割を通して、責任感を培うことができた。 ○部活動の入部率が高く、熱心に活動し、多くの部活動で優秀な成績を残している。 ○学校行事や部活動を通して、達成感ややりがいを感じ、人間的成長ができた。 △全生徒が主体的に取り組めるよう、学校行事等で準備委員を積極的に活用する。 △行事や行事の間隔が短く、教師や生徒の負担が大きい。実施の有無・在り方を検討すべきである。
		活動の具体的な目標を明確にし、継続して努力させる。	B	
		活動を通して役割を自覚させ、責任感を培わせる。	B	
学級経営	(1)相互の受容と共感によって親密な人間関係を 築く。 (2)各自が自分の役割を果たし協力してクラスに 参画する自主的、実践的な態度を育てる。 (3)生徒一人ひとりに積極的に関わることによっ て生徒の個性を理解し、学級経営や生徒指導に活 かす。	年間計画にもとづいて学級企画ホームルームを実施し、クラスへの帰属 意識と自尊感情を育てる。	B	△部活動への参加する生徒が減少傾向にある。活動環境をより充実させたい。 ○教員は生徒に寄り添い、個々に合った指導をしている。 ○面談など、生徒への対応はこまめに、迅速にできていた。 ○学級内の役割の大切さ、責任をもってやり遂げる必要性を理解させることができた。 ○健康管理室のカウンセラーと連携がとれた。 △クラス内に孤独感を感じる生徒や、友人間で相談がなかなかできない生徒がいる。 △問題のある生徒に手がかかりすぎている。
		学級内の様々な役割を、各自が責任を持って果たすことにより、団結力 のあるクラスに育てる。	A	
教育相談	(1)生徒指導部、ひのきしん生指導部、つとめ先、 寮、保護者、教会などと連携しながら、生徒が成長 できるよう支援を行なう。 (2)生徒一人ひとりの自尊感情を高めるために、 支持的・支援的な態度で接する。 (3)学級経営の充実と合わせて、生徒の心の健康 を増進させる。 (4)職員研修を定期的実施し、教育相談に関す る教師のスキルアップを図る。 (5)生徒支援委員会を開催し、生徒の支援の在り 方について、共通認識を持ち、組織的な対応を図 る。	一人ひとりの生徒について、担任を中心に生徒指導部、ひのきしん生指 導部、つとめ先、寮、保護者、教会などと情報を共有し連携して支援す る。	A	○生徒一人ひとりの課題や問題を教員間で共有し、組織で対応することができた。 ○カウンセリングを特別なことと受け止めず、自身のこころの安定のために利用する生徒が増加 した。 ○生徒との関りを大切に、わずかな変化を見逃さないよう努めた。 ○定期的な連絡会など、カウンセラーとの連携でより適切な対応を図ることができた。 △生徒の多様化に対応するため、研修や講習を積極的に実施すべきである。 △校内での支援体制の構築や教員間の連携に関しては、まだまだ改善の余地がある。 △業務におわれ、気になる生徒への対応が十分にできない。 △カウンセリングが必要と思われる生徒の中に、まだ一定数カウンセリングに抵抗がある生徒 がいるため、校内での支援体制の充実を図る必要がある。
		授業中、参拝時、休憩時間、夕食休み、放課後などあらゆる時間におい て積極的に生徒とコミュニケーションを図る。またその際は褒めるなど 支持的な声かけをする。	B	
		ホームルーム活動と個人的な支援を連携させながら生徒が元気に生活を 送れるようにする。	B	
		教育相談に関する職員研修に参加し、理解を深める。	B	
学寮	(1)学校・寮・つとめ先の三位一体の生活のなか で、学校・つとめ先・保護者との連携を強化し、互 い立て合い助け合う心育て、生かされている喜 びを素直に受けとる生徒を育てる。 (2)身上かしのもの・かりもの自由のご守護に感 謝し、進んで「早起き・正直・働き」を実践させてい ただく生徒を育てる。	生徒の個人情報の保護に努める。	A	○学校、つとめ先との連携が図れている。 ○教職員と連携し生徒指導・生活指導ができた。 ○おさづけを積極的に取り次ぐことができた。 ○生徒に落ち着きが見られる。 △精神面のフォローは、もっと研鑽を深めなければいけない。 △防犯対策の強化が必要である。 △建物の老朽化に伴い耐震が必要である。
		進んでおさづけを取り次ぐ。	A	
		保健部・教育相談室との連携を深め、精神面でのフォローを行い心身と ともに健康的に寮生活が営めるよう支援する。	A	
		生活指導員としての研修を継続的にを行い、学寮職員としての資質を高め る。	A	